

# 地歴公民 (歴史総合・日本史探究)

名古屋大学 文学部、情報学部 (人間・社会情報学科) (前期) 1 / 2

## <全体分析>

試験時間 90分

### 解答形式

論述式と選択式の併用で、論述式が中心。例年一部出題されていた単答記述式の設問がなくなった。論述式の解答分量は問題Ⅰ以外は解答用紙の行数により指定している。

### 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は昨年と同様5題だが、論述問題数は14問から20問に増加し、問題Ⅰを除いた解答行数も25行から34行に大幅に増加した。その分昨年急増した記述問題がなくなり、選択問題が6問出題された。

### 出題の特徴や昨年との変更点

大問数は昨年と同様5題だが、問題Ⅱが古代から近世のテーマ史となり、問題Ⅰ歴史総合(近代)、問題Ⅱ古代～近世、問題Ⅲ古代、問題Ⅳ中世、問題Ⅴ近世・近現代からの出題であった。例年、史料・図版など諸資料を利用した問題が出題されており、その傾向は今年も維持された。

### その他トピックス

問題Ⅰは昨年と同様、世界史と共通問題であった。

昨夏話題となった戦後50周年の村山談話に関する設問が出題された。

問題Ⅴ問4は直前講習「名大日本史テスト第2講 第3問問4」が的中した。

## <大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述式	イギリスから見た日露戦争	歴史総合からの出題で、世界史と共通問題。日露戦争後の情勢も含めて日露戦争の背景となった欧州列強諸国の国際情勢について理解をしておく必要がある。	やや難
II	論述式	古代から近世の絵画史	問1:白鳳期の絵画が外国の影響を受けていることに気づけばよい。 問2:曼荼羅の背景は密教。来迎図の背景は浄土教。 問3:具体例から題材として庶民生活も加えたい。 問4:日本の水墨画を大成したことを指摘する。 問5:天下人や大名であることを指摘する。 問6:庶民が買えるようになった背景を考える。	標準 やや易 標準 標準 やや易 標準
III	論述式	古代の歴史史料	史料からの読み取り問題だがそれほど難問ではない。 問1:史料から能力主義であることにもふれておきたい。 問2:史料と注から郡司の命令文書であることを指摘する。 問3:史料から藤原種継暗殺事件を想起する。 問4:史料から延久の荘園整理令を、系図から後三条天皇が摂関家を外戚としていないことを読み取る。	標準 標準 標準 標準

# 地歴公民 (歴史総合・日本史探究)

名古屋大学 文学部、情報学部 (人間・社会情報学科) (前期) 2 / 2

IV	論述式	室町時代の政治	問1：下線部が南朝方を指すことに気づけばよい。 問2：史料6行目の最後から3行あたりで「宥免」の理由が読み取れる。 問3：法令名は半済令だと気づきたい。 問4：下線部は皮肉の表現であることに気づき山名氏が南北朝の対立を利用して勢力を拡大したことに言及したい。	標準 やや難  標準 標準
V	論述式 選択式	近世から近現代の災害	問1：日露和親条約の国境に関する情報を述べればよい。 問2：「戦後50周年」から時期が限定できる。 問3：水戸学から尊王攘夷運動が展開したことを示す。 問4：史料から被害地域が重要地域であり、国民の戦意喪失に繋がることを述べればよい。 問5：日常的に差別対象としていたこと、その報復を恐れたことなどにふれたい。 問6：文章から時期の判断は難しくなかったであろう。	易  やや難 標準 標準 標準 やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

単純な知識だけで答えられる問題が少なく、相当な歴史的理解力・応用力が必要な問題が中心であり、歴史用語の暗記では対応できない。歴史的背景や因果関係を意識した学習が必要である。また、史料・図版を利用した問題が多く、史料や図版の読み取りの練習をしておく必要がある。加えて、設問要求を確実に把握し、簡潔に文章化する表現力の養成も不可欠である。